

# 「デカボ」を活用した事業者の脱炭素マーケティング促進 愛媛県産品の認知拡大及び販路拡大を実現

採択事業者名 中国四国博報堂株式会社 | Earth hacks株式会社  
 コンソーシアム構成員 中国四国博報堂株式会社 | Earth hacks株式会社

勉強会の実施概要	
勉強会の目的	現地大洲での「大洲デカボマップ」の設置場所などについてDiscussionすることを通じて、「大洲デカボマップ」のさらなる活用を目指す。
勉強会の当初のゴール想定と結果	大洲の事業者様との勉強会開催を「城下町テラスTAMON」で開催。
参加者	中国四国博報堂株式会社、Earth hacks株式会社、一般社団法人キタ・マネジメント、他大洲事業者様
協議アジェンダ	22年度～のEarth hacksの取組説明 / 23年度～のデカボマップ制作に関する御報告と活用まつわる御提案 / 質疑応答及び参加者とのDiscussion
データに基づく協議ポイントの整理	現地大洲での「大洲デカボマップ」の設置場所など、「大洲デカボマップ」の具体的な活用方法
主なデータ項目	関連記事が露出されたメディアの広告換算額、ユニークユーザー数、「愛媛フェア」でのお客様の生声
協議におけるガイドライン (含む具体例)	商品の環境性能を可視化するデカボスコアは、短期的かつ直接的な売上向上には繋がりがづらい一方、デカボスコアを活用したデカボPRは、メディアからの高い関心を呼んだこともあり、メディア露出などの面で大きな効果を生む為、それを踏まえたデカボソリューションの活用を検討する。
「実装成果」実現に向けた示唆/考察	事業者は自社商品の脱炭素化に取り組んでいるものの、環境貢献度の定量化は専門性高く未着手であり、サポート必須。また必ずしも脱炭素化に取り組んでいるわけではない事業者の「地産地消」型商品の環境貢献度可視化も積極的に推進すべき。

編集データの抜粋やビジュアルなどを適宜挿入



データ活用・協議の具体例		
	実装前	実装後
重要指標例	広告換算額：5,000万円～ PRを中心としたデカボのPromotion施策が功を奏し、大洲産品の認知拡大に寄与することができた。	
データ取得	・脱炭素化を目指した商品開発や訴求方法は、事業者ご本人様が販売店舗オーナーらと協議の上、決定。	・規定のヒアリングシートに沿って、商品の製造にまつわる情報を収集。
データ活用	・定量数値以外の判断基準を踏まえて、脱炭素化商品の開発、並びにPromotionを実施。	・ヒアリングシートの記入内容に沿って計算。 ・CO2排出量を計算するだけでなく、従来品との比較を行い、その削減率をデカボスコアで算出。
実行	・各商品が店頭に並ぶ店舗にて、POPなどで脱炭素性能を訴求しながら販売。	・算出を行った商品をデカボスコアとともに紹介する「大洲デカボマップ」を制作。
協議	・定量数値以外の判断基準を踏まえて、脱炭素化を主眼にした新たな商品の開発。	・「大洲デカボマップ」の活用法についての意見交換を実施。

## データ活用・協議による成果

・「大洲デカボマップ」の公開、番組コラボなどを通じて、2022年度の活動時以上の広告/PR効果を獲得。今後は、デカボスコアが「定量的な環境マークである」という特徴を生かしたさらなるコンテンツの開発・実装にトライ&エラーで取り組み、広告/PR効果は勿論のこと、愛媛県民(生活者)の行動変容促進を強化していく。

勉強会実績